

令和元年12月2日  
第4回大阪府猛暑対策検討会議  
資料1-1

# 今夏の天候について



気象庁マスコットキャラクター  
“はれるん”

大阪管区气象台 気象防災部 地球環境・海洋課

きょうだ まさゆき

経田 正幸

- ▶ 7月終わりから8月はじめにかけては、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが強まり、晴れて気温の上がる日が多くなった。
- ▶ 熱中症リスクの高まる詳細な時期の把握には、「2週間気温予報」（毎日発表）が有効であった。

# 大阪の日最高気温の推移等 ～今年の特徴～

- 今年の盛夏期の気温は昨年並みに高かった。
- その後も、気温の高い時期が現れ、9月としては統計開始以降第3位の高さだった。

	1位	2位	3位	4位
7月	+2.4 2018年	+2.4 1994年	+1.9 2004年	+1.6 2017年
8月	+1.8 2010年	+1.4 1994年	+1.3 1995年	+1.1 2018年
9月	+2.1 2007年	+2.1 1999年	+1.9 2019年	+1.7 2010年

表：7～9月各月の近畿地方平均気温平年差の順位表。統計開始は1946年。

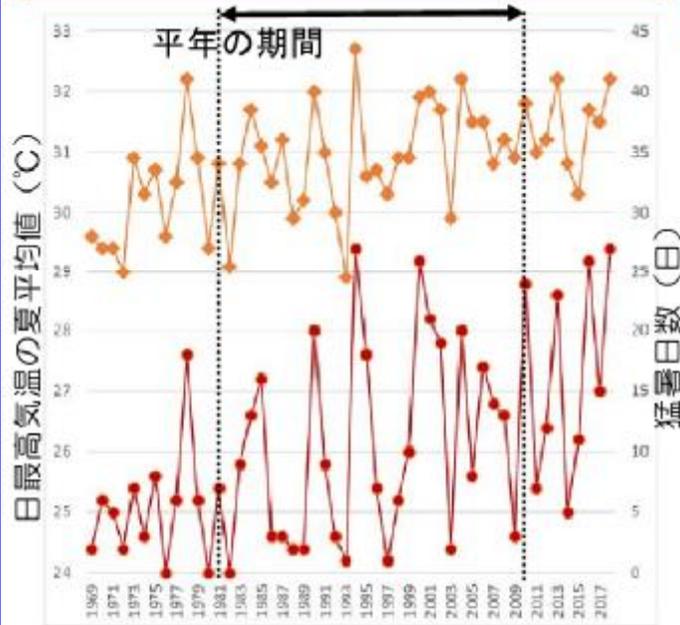
グラフ：2018年（橙色）と2019年（紫色）の6/1～10/5における大阪の日最高気温の推移。緑色線は平年値。



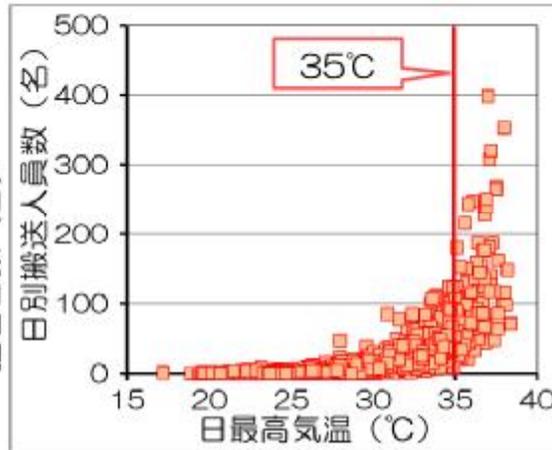
## 大阪の夏(6~8月)の気温：傾向と熱中症との関係

近年の猛暑日の日数は、多い年が20日以上、少ない年でも数日ある。

日最高気温35℃(猛暑日)は、熱中症の救急搬送人員数が急増する目安の温度といえる。

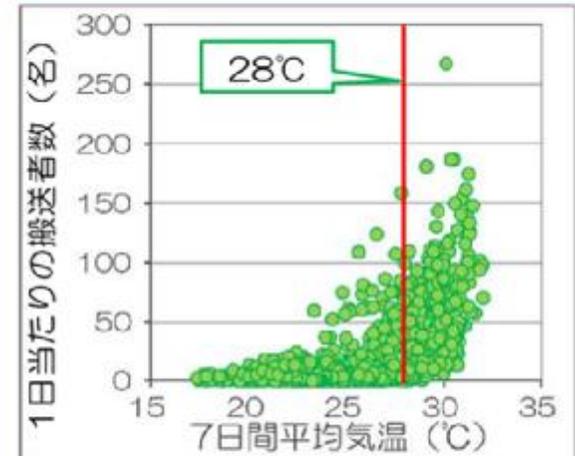


1969~2018年の大阪の夏の傾向  
日最高気温の平均値(橙色線;左縦軸)と猛暑日(35℃以上を超えた日)の日数(赤色線;右縦軸)。



大阪の日最高気温と熱中症による府内救急搬送人員数との関係  
値は2008~2018年の日別値。  
熱中症による救急搬送人員数は総務省消防庁による。

### 7日単位(2008~2017年)

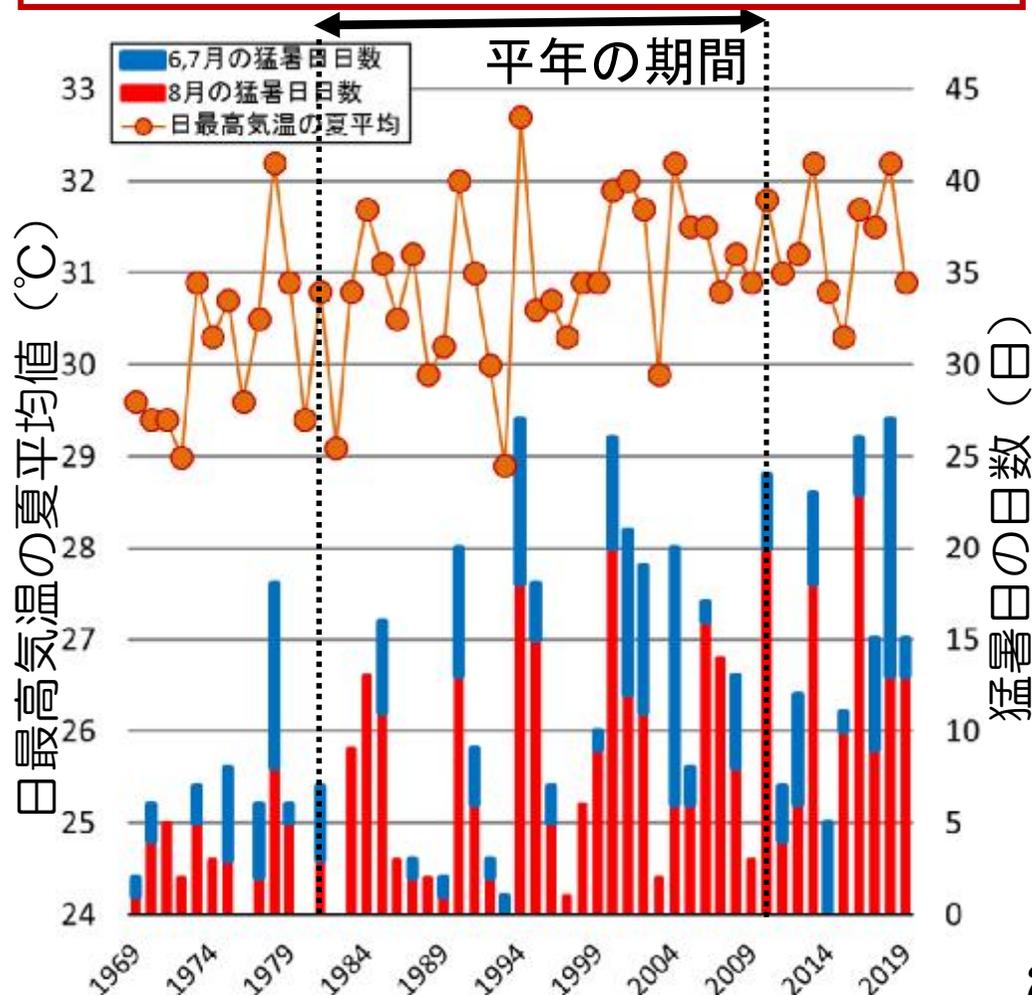


※熱中症による救急搬送人員数は、総務省消防庁HP内の熱中症情報ページに掲載している値。

# 今夏の大阪の猛暑日と熱中症の関係

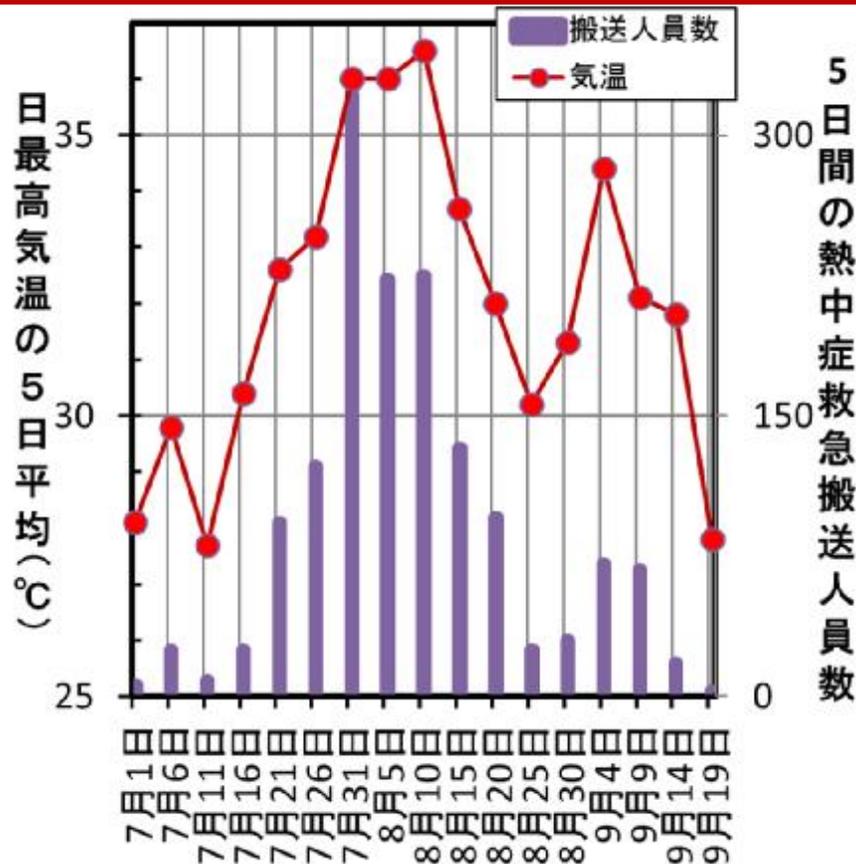
今夏の猛暑日の日数は15日。8月は13日と昨年と同数であった。

7月31日頃からの日最高気温の上昇と共に、熱中症による救急搬送数が急増した。



1969～2019年の大阪の夏の傾向

日最高気温の夏平均値 (橙色折線; 左縦軸) と猛暑日 (日最高気温が35℃以上の日; 棒線; 右縦軸) の日数 (青色は6,7月、赤色は8月)

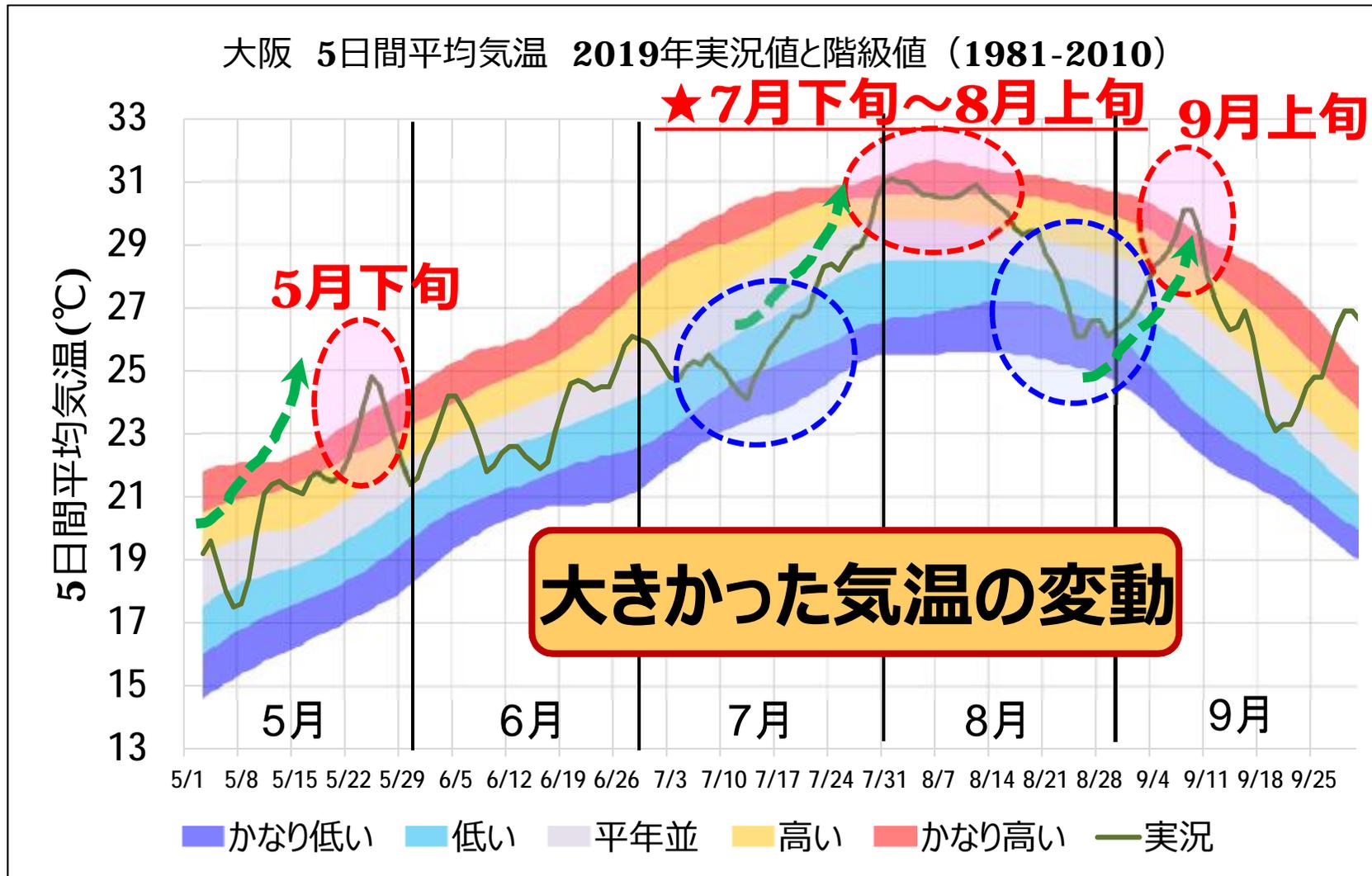


2019年の大阪の最高気温 (左縦軸) と大阪市での熱中症による救急搬送人員数 (右縦軸) の推移  
横軸は期間 (5日間) の初日。熱中症による救急搬送データは大阪市消防局公開資料より。 5

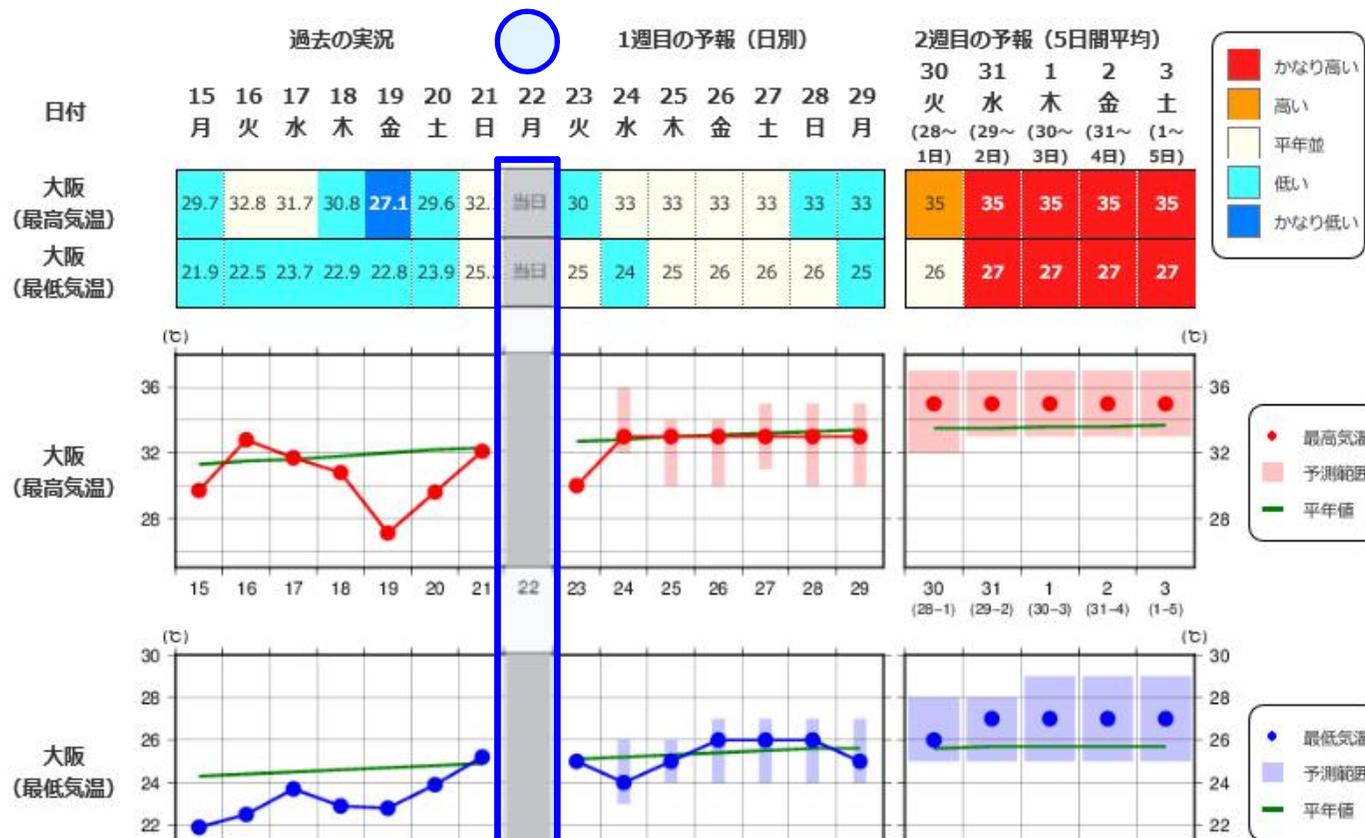
## 今夏の天候の見通しについて

- ▶ 昨年のような猛暑が続く状況となる可能性は小さい。  
ただし、一時的に高温となる日はあるので、熱中症リスクの高まりには注意を怠らな  
いでいただきたい。
- ▶ より詳細な熱中症リスクの高まる時期は、6月19日から始まる「2週間気温予報」（毎日発表）等で把握いただきたい。

# 2019年5～9月の5日間平均気温の推移（大阪）



# ★令和元年7月22日発表の2週間気温予報（大阪）



**高温が持続する予想**



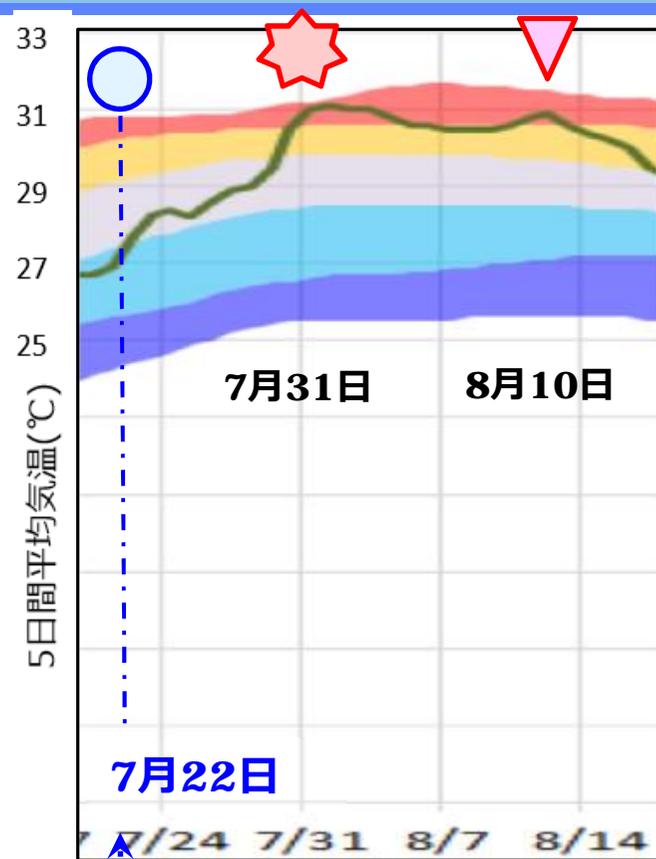
# ★2019年7月下旬～8月上旬の大阪での高温事例

## 高温が持続する予想

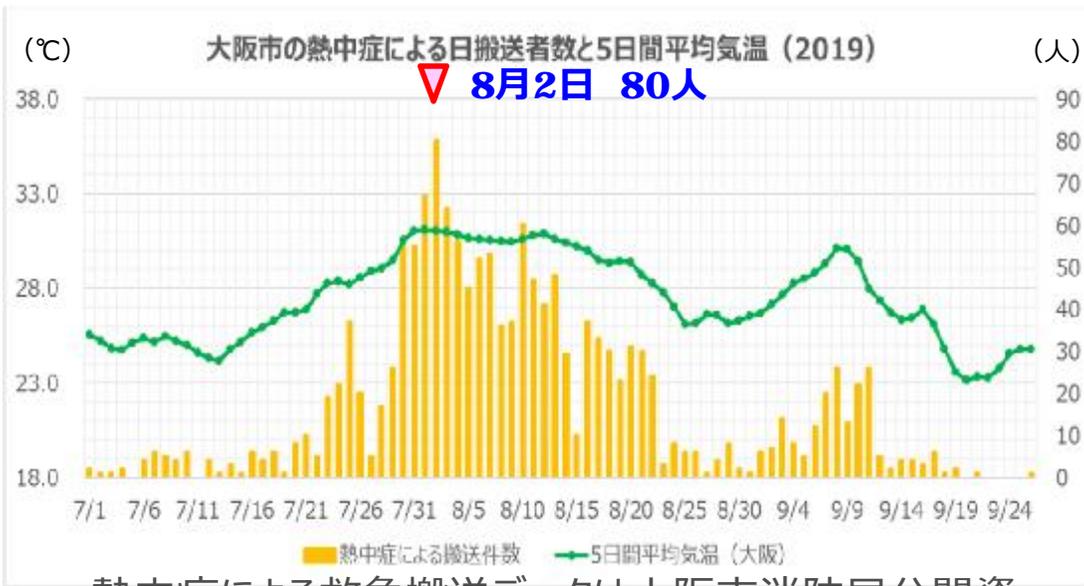
7月31日	最高気温	35.4℃
	平均気温	31.2℃
	最低気温	28.4℃

8月 2日	最高気温	37.5℃
	平均気温	31.4℃
	最低気温	28.6℃

8月10日	最高気温	37.2℃
	平均気温	30.7℃
	最低気温	27.5℃



高温に関する早期天候情報（近畿地方）  
令和元年7月22日14時30分発表



熱中症による救急搬送データは大阪市消防局公開資料より。

高温に関する早期天候情報（近畿地方）  
令和元年7月22日14時30分  
大阪管区气象台 発表

近畿太平洋側 7月31日頃から かなりの高温  
かなりの高温の基準：5日平均地域気温年差+1.7℃以上

近畿地方では、向こう2週間程度は平年並か高い日が多く、近畿太平洋側では、7月31日頃からは平年よりかなり高くなる可能性があります。

農作物の管理等に注意するとともに、急激な気温上昇の際は熱中症にかかりやすくなります。体調に配慮しつつ、気温上昇の前に汗をかく機会を増やすなど暑さに慣れる取り組みを行ったり、屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保したりするなど事前の熱中症対策を進め、健康管理等に注意してください。

# 大気の流れの模式図2019年7月下旬後半～8月上旬前半

・日本付近で上層のチベット高気圧、下層の太平洋高気圧が強まり、日本付近で下降気流が強まり、暖かい空気に覆われ、晴れて暑い日が続いた。

・上層のチベット高気圧の強まりは、偏西風の蛇行による。  
・下層の太平洋高気圧の強まりは、フィリピン付近からフィリピンの東にかけて対流活動が活発となり、上昇した空気が日本付近で下降気流となったことが関連していると考えられる。

